



B) 国際マスターズアルペンスキー競技ルール (ICR-マスターズ)

MA 1) 原則

このルールを定める目的は、30 歳以上 (マスターズ) のアルペンスキーヤーに下記のシステムを提供する事である。

- 同じような年齢や技術のスキーヤー同士がフィットネスやスポーツマンシップ精神を持って競う為。
- 長年にわたる、体力面や健康向上の為、達成可能なゴールを設定することで、トレーニングをしやすいようにする為。
- 競技を通して他国のスポーツ愛好家との理解と友情を深める精神を啓蒙する為。
- 競技スキーを世界中に振興させるため。

MA 2) 競技者の資格

参加者は男女のスキーヤーで、(財)全日本スキー連盟 (以後、SAJ と称す) の会員であり、且つ、競技年度の 12 月 31 日までに満 30 歳である事。競技年度は 7 月 1 日に始まる。

MA 3) 年齢グループとクラス:

開催者は各クラスを正確な用語 (この項目で示すとおり) を用い、公式書類 (リザルトやスタートリストなど) を使うことを定められている。

	カテゴリA (グループA)	カテゴリB (グループB)
	A- 1 30-34	B- 6 55-59
	A- 2 35-39	B- 7 60-64
男子	A- 3 40-44	B- 8 65-69
	A- 4 45-49	B- 9 70-74
	A- 5 50-54	B-10 75-79
		B-11 80-84 etc..
	カテゴリC (グループC)	カテゴリC (グループC)
	C- 1 30-34	C- 6 55-59
	C- 2 35-39	C- 7 60-64
女子	C- 3 40-44	C- 8 65-69
	C- 4 45-49	C- 9 70-74
	C- 5 50-54	C-10 75-79 etc

各国ごとの参加者数は制限されていない。
(国際スキー連盟 (以後 FIS と称す) 国際評議委員会で認可された制約を例外とする)

MA 4) コース:

全ての競技は FIS 公認コース、且つ、下記の標高差を満たしたコースで行われる事。



a) スラローム

最低 120m - 最高 180m 全てのカテゴリ

コースの数

カテゴリ B/C と カテゴリ A は違うコースを設定しなくてはならない。

(世界大会：カテゴリ毎にコースを分ける義務)

b) ジャイアントスラローム

最低 250m - 最高 350m カテゴリ A

最低 200m - 最高 300m カテゴリ B/C

コースの数

カテゴリ B/C と A のコースは違うことが望ましいが、レース用のコースを2コース用意できない場合は、1コースで行うこともできる。

二つの違うレベルのスタート地点を設置することが望ましい。

(世界大会：カテゴリ毎にコースを分ける義務)

c) スーパーG

最低 300m - 最高 400m 全てのカテゴリ

マスターズレースのスーパーG用コースは、マスターズスキーに適したものであり、FIS ルールに適用したスーパーG コースよりも短く、ターンの半径も小さめで、スピードがゆっくりである事。

MA 5) 用品ルールとコントロール

a) スキー、プレート、ブーツのルール:

「FIS 競技用品規格」を参照。

下記の用品ルールはマスターズレースにおいて、最重要事項である。

スキー板の長さとうディウスの最小限:

	長さ		ラディウス
a)スラローム:			
男子	165cm		—
女子	155cm		—
b)ジャイアントスラローム			
男子	185cm	-5cm 許容差 =	21m
		180cm	
女子	180cm	-5cm 許容差 =	21m
		175cm	
c)スーパーG			
男子	185cm	許容差なし	21m
女子	180cm	許容差なし	21m

* MA4) の最終行に記されているスーパーG用のコースに関連して、ジャイアントスラロームの板を使用してもかまわない。



全競技について:

女子が60歳以上、男子は70歳以上にはスキー板の長さを制限しない。

スキーのプレートとスキーブーツの底の高さの最大

スキーの滑走面からブーツの底までの最大距離（高さ）： 55mm

スキーブーツの底から足の裏までの最大距離（高さ）： 45mm

b) クラッシュヘルメットのルール:

ルール MA 11) の安全を参照

(クラッシュヘルメットはスーパーGとジャイアントスラロームにおいて着用する)

c) コントロール:

- TDは競技者が、FIS用品ルールに従っているかをチェックする義務がある。しかし、TDは、競技者やチームキャプテンに選手の用品のチェックを依頼された時のみ義務付けられている。
- コントロールはスタート前に行われるのが望ましい。
- TDはこの任務を他のジュリーメンバーに（スタート審判！）に委任しても良い。
- もし、スタート前に異議が出された場合は、抗議の費用が課されない。一般的な抗議の費用は、抗議されている選手がスタートした後抗議が出された場合のみ課される。

MA 6) エントリー:

- エントリーは（FIS エントリー用紙を使用し、生年月日、FIS マスターズコード番号、現在のポイントを明記する）、SAJが組織委員会宛に郵送し、最初のドロワーの最低24時間前、できれば最初のレースの4-7日前に届くようにすること。
(世界大会: 最低10前に届く事が必須)
 - 遅れたエントリーに関しては、組織委員会の裁量で判断する事が認められている。
 - 各国内スキー連盟はエントリーされた競技者が FIS 選手宣誓書に署名し、国際競技で競技する為のライセンスを所持していることに責任を持つ。
- * 国内大会のエントリー締切日はその大会の組織委員会で決定する。

MA 7) ドロー:

FIS マスターズポイントはクラス毎のシードを決める際に使う。

ファーストシード（2から最大15選手までの間で形成され、各クラスのシードリストの大きさはポイントギャップを元にして、ジュリーが決定する）のドロワーが行われ、続いてポイントの順序が上の順にドロワーを行う。競技者でポイントの無い者は、最後にドロワーが行われる。

MA 8) レースポイント - FIS マスターズポイント:

a) レースポイント:



- レースポイント（FIS マスターズポイント）はカテゴリー（A,B,C）毎に分けて計算され、各カテゴリーの一番速いレーサーが 0 ポイントとして計算される。レース開催者はペナルティの計算をしなくて良い。ペナルティは FIS 事務局において、リザルトを処理する際に行われる。
- b) FIS マスターズポイントリスト:
 - FIS マスターズポイントリストは FIS 事務局によって、過去 15ヶ月間の2つの最良のリザルトを基にして計算し、少なくとも 1 年に 1 回準備され発行される。同じ競技年度の間のポイント最新リストは、現在の競技年度から、準備されるまでの期間が含まれる。
 - ポイントリストは競技年度の開始時間に合わせて準備され、11月と世界大会の1週間前に発行される。
- スラロームポイントはスラロームに、ジャイアントスラロームポイントはジャイアントスラロームとスーパーG に与えられる。ジャイアントスラロームポイントはジャイアントスラロームとスーパーG のドロウの時に使用される。（ダウンヒルにおいても使用が推奨される場合もある）
- 全ての FIS マスターズレースは FIS の TD によって指揮され、FIS のカレンダーに記載され、取得したポイントは FIS マスターズポイントリストに有効である。
- 固定ペナルティはマスターズレース小委員会によって競技の難易度別に決定される。

WCM	FIS 世界大会マスターズアルペンスキー	ペナルティ	0ポイント
FMC	FIS マスターズカップ	ペナルティ	0ポイント
ALP	国際アルペンカップ	ペナルティ	15ポイント
MAS	FIS マスターズレース	ペナルティ	50ポイント
COC	コンチネンタルカップマスターズ	ペナルティ	50ポイント

MA 9) 競技ごとのラン:

- a) スラローム:

スラロームは2本競技する。カテゴリ C/B と A は別のコースで競技する事。

コースセッティングは、一つのコースで競技が行われている間に、もう一つのコースでコースインスペクションが行えるような方法で準備しなくてはならない。

特別な例外として、コースコンディションの状況でジュリーが2本目をキャンセルする判断をした場合、小委員会は一本のみのスラロームを有効と申明する事がある。
- b) ジャイアントスラローム

ジャイアントスラロームは一本又は、二本で競技が行われても良い。
- c) スーパーG:

1 本

MA 10) スタート順とスタートインターバル:

- a) スタート順:



- 基本的には、(カテゴリ C) の女子が (カテゴリ B) の男子よりも先にスタートする。年齢の若い男子 (カテゴリ A) が最後にスタートする。ジュリーはもし、カテゴリ C と B に有利になるようならば、違う判断を行うことがある。
 - カテゴリ内では、年齢層の高いクラスが、若いクラスより早くスタートする。
 - 二本目のスタート順:
ピボ・ルールに従って一本目の上位 5 選手 (5 歳ごとのクラスで) の順序を逆転した順番にスタートする。他の選手は一本目のタイムの早い順にスタートする。
- b) スタートインターバル:
- スタートインターバルはジュリーによって決定される。通常は 30 秒。
 - 男子 75 歳以上、女子 70 歳以上、クラス毎の間のスタートインターバルは一分以下ではない。
 - 目に見えて遅い選手の後には、長めのインターバルが勧められる。

MA 11) リスクの認識:

- a) リスク:
- 原則的にはマスターズレースは各自のリスクの元で行われる。全競技者は FIS 宣誓書に署名をし、所属するスキー連盟に提出すること。
- b) 安全面:
- スーパー-G とジャイアントスラロームにおいてクラッシュヘルメットの着用が義務付けられている。
 - 悪天候、雪のコンディション、コースの準備状況、又は競技中に視界不良などの危険が伴う場合はジュリーによって、競技の続行、中断、延期、中止の判断が行われる。
- * 第一に考慮すべき事は、競技者の健康と安全である。

MA 12) 競技の申請書と TD:

- a) 競技の申請書:
- FIS マスターズレース開催者として認めってもらうためには、FIS 申請書を所属連盟を通して出願する事。
- b) TD:
- TD は任命されるものとし、TD の経費は開催者が FIS 規約 (ICR 602, 5) に基づいて支払う。
 - TD は競技を指揮するのに加えて、TD レポートを作成し、リザルトと共に下記の担当者に電子メールまたは、コピーを郵送する義務を持つ。
 - ・ FIS 事務局のマスターズセクレタリーにマスターズポイントリストの算入と保管の為。
 - ・ FIS マスターズカップ (世界大会も含む) のリザルトのみ、FIS マスターズカップ (マスターズワールドカップ) 総合ポイント計算の責任者に。
 - ・ マスターズ小委員会委員長と国内マスターズ委員長にハードコピーのみ。



- ・ 郵送先のアドレスやコンピューターのフォーマットは規約 MA58) 参照
- ・ TD の任務として用品規約 MA5) b)を確認する事。

MA 13) 国際競技規則 — ICR

これらのマスターズ規則は FIS 国際競技規則の一部である。

マスターズ規則で具体的に言及されていないところに関しては、ICR の規則が当てはまるものとする。

C) FIS マスターズレースの組織に対する規定と指針

【1】 組織委員会への一般的な規定とガイドライン

MA 21) 定義:

- 「規定」は規則のようなもので、施行義務がある。
- 「ガイドライン」はマスターズレースを長年運営してきた経験に基づき、適切な対処で、頻繁に起こりやすい諸問題を防ぐ助けになると考えている。

MA 22) 競技の種類:

下記の国際マスターズレースは国際スキー連盟 (FIS) の主催の元、行われるものとする。

- FIS 世界大会マスターズアルペンスキー (WCM) 毎年開催
- FIS マスターズカップ (FMC)、毎年約 18-25 レース、女子、男子、ワールドカップシステムによって、競技年度の最後に最終戦が行われ、マスターズカップ総合優勝者がシーズンの終わりに決定される。
- インターナショナルアルペンカップ (ALP) は目下、男子ジャイアントスラローム5戦から成り立ち、最終戦を行い、総合優勝者はポイントで決定される。
- 他の国際「FIS マスターズレース」(MAS) は FIS のカレンダーに記載されるとおりである。
- コンチネンタルカップマスターズ (COC)

MA 23) マスターズレースに関連する規則:

- FIS-ICR マスターズアルペンスキー
- FIS-ICR (国際競技規則)
- 「特定の規定」を含んだ、「規定とガイドライン」
- FIS マスターズポイントリスト。FIS 事務局から最低 1 年に 1 回は発行される。
- FIS カレンダーマスターズ
- 公認コースの規則

MA 24) マスターズアルペンスキーICR 条項:

- 1) 原則



- 2) 競技者の資格
- 3) 年齢グループとクラス
- 4) コース
- 5) 用品規則とコントロール
- 6) エントリー
- 7) ドロー
- 8) レースポイント – FIS マスターズポイント
- 9) 競技ごとのラン
- 10) スタートオーダー – スタートインターバル
- 11) リスクの認識
- 12) 競技申請書と TD
- 13) 国際競技規則 – ICR

MA25) 技術面の義務:

- FIS 規則に基づいた競技コースである事。SL,GS,スーパー-G 種目ごとに定められた FIS 公認規則に則っている事。
- 最重要事項として、スラロームの斜面はコースが並行に2本設定できる事。
- 大きな大会を除いてできる限りは、1セット計時機器、1つのフィニッシュエリア、1グループの旗門係員、コース整備係りと役員で行う事。
- ジャイアントスラロームのコースは2本勝負が望ましい。しかし、世界大会を除いては1本でも可能とする。

MA 26) レースの(開催)準備:

- 国内スキー連盟の承認を得て、最低でも競技の1年前には競技開催の申請をする事。
- 申請の際には FIS 申請書を用いて、所属スキー連盟を通して、5月までに申し込む事。
- 関連するマスターズレースの規則のコピーを入手する事。
- もし望むようであれば、希望する TD を自国の TD フォーラムの主任から指名してほしい旨提案できる。(TD フォーラムは各自の国から出される)
- 地元のスキーリフト会社と交渉し、選手と同行者のスキーパスは割引もしくは、無料にしてもらうのが望ましい。
- コンピューターソフトウェアがマスターズレースに適し、FIS 事務局の必要事項にも対応するか確認する事。(規則 MA58 参照)
- レースプログラムは全ての関係するマスターズスキー連盟、役員と競技者に、間に合うように準備発行されなくてはならない。
(競技の最低3-6週間前、可能なら前のレースの時に配布する。規則 MA51 参照)
- 宿泊予約センターを開設する事。(地元の観光局?) 幅を持った価格帯を提供する事。



- 競技の一ヶ月前には、所属するスキー連盟または、FIS の経験のあるマスターズオフィシャルと連絡を取り、組織の詳細を地元の役員にトレーニングしてもらうように彼を招待する事。
- レースオフィスを開設すること。

MA 27) 他の活動:

メディア-地元、地域、全国のプレス、ラジオ、テレビ局などとの関係を築く事。

- 地元の広報活動に着手する事
- ウェブ サイト
- 広告、新聞、スタートナンバー、スタートとリザルトリスト、プラカードなどへのスポンサーの確保に努力する事。
- 競技が2日以上イベントの場合は、社交的イベント(カクテルパーティー)などを選手の為に開催する事。理想的には18時から19時30分の間にて開催し、その日の商品授与式やイベントのプログラムに変更があった場合の告知ができることが望ましい。
- 開催者は各クラスの上位3選手(可能であれば、大きなイベントでは上位5選手)と各カテゴリの優勝者に賞品を用意する義務がある。
- 賞品授与は毎日開催し、最終日には可能な限り簡素にフィニッシュエリアで行い、競技者が早く出発できるように配慮する事。

MA 28) 費用

FIS マスターズレースの開催者として認められた場合、定められた FIS カレンダー費を所属スキー連盟を通して、遅れることなく送金する事が義務付けられている。

レース後:

開催者は徴収したエントリーフィーの一部を「国際マスターズ基金」宛に、通知がなくとも送金する事。金額は各競技者がエントリーした競技毎のエントリーフィー数によって決められる。送金した費用の詳細リストはリザルトをマスターズ小委員会委員長に郵送する際に一緒に同封する事。

下記の費用は最後のレースから数えて、2週間以内に支払う事:

国際マスターズ Fond
口座番号 Nr.164- 053-450
HYPO TIROL BANK, BLZ. 57000
IBAN Code: AT 89 5700 0001 6405 3450
S.W.I.F.T. Code: HYPT AT 22

費用:

FIS マスターズカップ	1,50	ユーロ各競技者、各レース
インターナショナルアルペンカップ	0.75	ユーロ各競技者、各レース
他の FIS レース	0,50	ユーロ各競技者、各レース

* 銀行送金は受け取り手に手数料がかからない手段で手配する事。



前レースの支払いが完了するまでは、開催リゾートは他のマスターズレースの任命を受けることが出来ない。

国際マスターズ基金はマスターズ小委員会によって管理される。口座支払いは国際マスターズレーシングの為にのみ支払われる。
(例:マスターズカップ総合優勝者のトロフィー)

【2】 競技コース

MA 31) コースセッティング:

開催者は経験のあるコースセッターを用意する義務がある。特別に ICR マスターズ規則で言及されている事以外は ICR 規則(国際競技規則)が適用される。

(例えば、標高差、コースの特長など)

- 斜面に対してリズム良く流れるようなコースセットをし、予想できないようなセッティングは避ける事。
- スピードを落とさせる為の特別な方法、例えば急なターンや長い斜滑降ラインは避ける事。
- 硬く機械で圧雪したコースを用意し、出来れば人口降雪が望ましい。競技者に公平なコンディションを保護できるようにコース整備係員が引き続き整備する事。
- 全ての競技コースは各種目に適した FIS 公認コースでなくてはならない。
- 競技は技術や上手なテクニックによって競われるもので、衝突や失格者によって決定されるものではない！最優先事項として、選手の安全が考慮されなくてはならない。

MA 32) スラローム:

- オープンにセットし、斜面に対してリズムカルで、転倒を誘発させないようにする事。
- 規則 MA 4)a)を参照し、カテゴリ C/B と A のコースを別にするように考慮する事。
- 推奨される競技の順序(もし、公式に一本しか配置できない場合のみ):
 1. C と B カテゴリの競技者の一本目を行い、続いて:
 2. A カテゴリの競技者の一本目を行い、同時に二本目のコースセッティングと C と B カテゴリの競技者によるインスペクションを行う。
 3. C と B カテゴリの競技者の二本目が行われているとき、同時にカテゴリ A の競技者のコースセッティングとインスペクションを行う。
 4. カテゴリ A 競技者の日本目と続く。
- 二本目スタートオーダーは規則 MA 10)a)を参照

MA 33) ジャイアントスラローム:

- 1本もしくは2本を同じ日に行う(2本目のスタート順:スラロームと同じくピボ・ルールで行う)
- カテゴリ B/C と A が2つの別のコース行われるのが望ましい。それが不可能なところ



では、カテゴリーA のコースを短くしたものをカテゴリー B/C のコースとして使用することが認められている。この場合、カテゴリーC と B の競技が終了した後、カテゴリーA のために新たにコースを整備する事。もしも、わだちや岩が見えてしまっていたら、内側のポールを設置しなおす事が勧められるが、その際は1 m以上内側にしない事。基本的な滑走ラインは変更されないため、追加インスペクションは行わない。抗議を避けるためにも、このことはチーム キャプテン ミーティングにおいて、了解が得られているようにすること。

- スタートインターバルは30秒が推奨される。規則 MA 10)を参照。

MA 34) スーパーG:

- 極度のスピードや、危険度の高いジャンプ、波打つようなコースは避け、危険なエリアについては個々に通知し、フィニッシュエリアも安全に通り抜けられるようにする事。死角になる旗門は避けるようにする事！
- マスターズのスーパーG はマスターズの選手に適したセッティングでなくてはならない。
- 短く、ターンは小さめの半径で、すなわち一般の国際スーパーG に比べると、安全でスピードが遅めである事。ジャイアントスラローム用スキーの21m ラジウスの使用が認められていることを念頭に置くこと。規則 MA4) c) と MA5) c) を参照。

【3】 競技の管理

MA 41) ウォームアップ:

競技斜面と指定されているところの内側でのフリースキーは禁止され、厳重に管理する事。可能であれば、並行にウォームアップ用の斜面を用意する事。

MA 42) コースインスペクション:

雪の状態が軟らかい場合、サイドスリップ(横滑り)によって旗門間をインスペクションする時、斜面が荒れてしまう為、サイドスリップは禁止とする。この事はチームキャプテンミーティングにおいて発表する必要は無い。全ての選手にいきわたらせる為、スタート地点で指示を、旗門は交通遮断するか、旗門のライン部分に斜めにしたポールを立てておく事。

MA 43) スタートインターバル:

競技を迅速に行う為に、妥当でなるべく短いスタートインターバル（30秒）を選ぶ事。

規則 MA 10)b)参照。

MA 44) 重要事項:

特にスラロームについては、1本目終了後、直ちにコースセットしなおしてインスペクションをするよう計画し、2本目との中断時間を可能な限り短くする事。

【4】 運営



MA 51) レースプログラムとプログラムの計画:

a) レースプログラム:

英語を含む二ヶ国語で提出され、下記の内容を含む事。

- 競技開催者の名前、スキーリゾート名、競技日
- 組織委員会、役員、スポンサー
- イベントとチームキャプテンミーティングの日程
- 登録締切日-規則 MA6) を参照。住所
- エントリー費、リフトの値段
- 競技コースについての技術的な詳細と場所
- 賞品授与と社会的プログラムの詳細
- 宿泊に関する詳細。宿泊設備オフィスの住所、Eメール、電話番号、FAX 番号
- 交通手段の詳細（例：地図、リゾート内の道順やエリアマップ）

b) プログラムの計画:

もし2つ以上の競技が行われる場合は、一番時間のかからない競技（ジャイアントスラローム？）を最終日に計画し、競技者が早く会場を出発できるように配慮することが望ましい。

MA 52) エントリーとエントリー費、FIS コード:

a) エントリー:

- 規則の MA6) エントリーを参照
- チームキャプテンは、エントリーした競技者が実際に参加するのかをレース毎に再確認し、スタート時点で不在の選手数を減るようにする義務がある。
- 国内スキー連盟のマスターズ委員長はエントリー費を払わず、理由もなく競技に姿を見せないことで有名な選手には、適性且つ、妥当な判断基準を提示することが推奨される。

b) エントリー費:

- 現時点ではエントリー費は各競技、各人あたり 15 ユーロを超えないこと（又は、同額である事）スタート番号を配布する際に個別に徴収される。

（世界大会については、規則 MA74 参照）

c) FIS コード:

- FIS マスターズレースに参加する全ての選手は FIS コードを持っていないといけない。 FIS コードは身分証明書と電子データ送信の際に使用される。論理上一人につき、一つの FIS コードを所持するものとする。 FIS コード取得に関しては国内スキー連盟（正しい名前のスペル、性別、国籍、誕生日）を通して、 FIS 事務局に申し込み、事務局の時間内に返信メールにて取得することになる。（普通は同じ日）



MA 53) チームキャプテンミーティングとドロー:

- 夕食、カクテルパーティーや賞品授与の前、凡そ17時頃に行われること。但し、初日の競技の前日を除く-初日は到着の遅れを考慮して18-19時頃が望ましい。
- チームキャプテンのみが出席、参加する事が望ましい。空席がある場合のみ、選手が聴講者として出席できる。
- ドローについては規則 MA7) 参照

MA 54) レースオフィスと掲示板:

- レースオフィスは見つけやすい場所に開設し、分かりやすく表示する事。
- 案内掲示板はオフィスの外に設置し、オフィス時間外でも見れるようにすること。リフトステーション(上と下)やスタート地点に設置すると大変重宝である。
- チームキャプテンが個別に到着し、別のところに宿泊する全ての選手に接触するのは不可能だと言う事を考慮する事。
- 案内が必要な事項:スケジュール、リフトの運行時間、ゼッケン回収と授与式の場所と時間、リフトパス、コースへのアクセスの詳細、スタートリスト、前回のリザルトと社会的プログラムについて。

MA 55) ワックスルーム:

大きな競技では、特にホテルがそのような施設を用意できない場合は、スキー板の準備ができる環境を用意する事。

MA 56) スタートナンバー:

- 選手が個別に貰う事。スタート番号に関しては、限られた時間内でエントリー費とリフトパスの支払いをし、スタート番号を貰う為、効率良く準備されている事。十分な枚数のスタートリストも用意する事。スタートリストはカテゴリごとに分けること。(カテゴリBとCは同一ページに表示しても良い)
- 大きな大会では、競技の前の晩にスタート番号の一部をレースオフィスで配布する事も考える事。

MA 57) フィニッシュエリアのリザルト(暫定タイム掲示板) 掲示板:

- 重要事項:フィニッシュエリアの安全な場所に設置し、タイムを掲示すること。(年齢クラス別に見れるようにすること)
- フィニッシュエリアには何ヶ国語かを話せるアナウンサーが居る事。フィニッシュエリアに電光掲示板設置することが推奨される。

MA 58) リザルトリスト- ペナルティ:

a) リザルトリスト:

- リザルトリストは各選手が掲載内容を確認できる事(名前の正しいスペルのほかに)、コード番号、国表示と生まれた年。



FIS Masters Racing Alpine international Competition Rule



- 各競技者へのコピーも用意し、なるべく早く配布され、授与式よりも遅くならない。
適切な年齢クラスごと(30-34, 35-39, 40-44 など)に分けられていること。
可能であれば、カテゴリ B/C はカテゴリ A と別に発行すること。
 - b) ペナルティ:
 - マスターズレースは「ゼロポイント」競技と考えられているので、レースペナルティーは計算されない。従って、各競技、各カテゴリ C,B,A ごと 1 名、計 3 選手がゼロポイントとなる。
 - 通常の公認競技と同じように、FIS マスターズポイントリストにレースポイントが移行された時に、競技ペナルティが FIS 事務局で加算される。(規則 MA8 参照)
 - c) 郵送:
 - 1 セットの公式リザルトは FIS 対応フォーマット-XML を使用して、下記に電子メールにて送信されなくてはならない。
 - ① リザルトのウェブ サイト掲載用 alpinresurt@fisski.ch
 - ② FIS マスターズポイントリスト計算用 longhi@fisski.ch
 - * TD レポートと計時レポートも一緒に
(もしも、不可能な場合は FAX にて+41-33-244-6171 Mrs.Prisca Longhi 宛)
 - ③ マスターズカップ総合ポイント計算用 roger.edme@freesurf.ch
(世界大会を含む FIS マスターズカップのリザルトのみ)
 - 推奨されるフォーマット: PDF(Acrobat) 、DOC(Word), 又は TXT (Ascii,Delomited)
- * リザルトのハードコピー(各 1 部)を下記に郵送:
- 1) ファイル用
Mrs.Prisca Lonngghi
FIS - International Ski Federation
BlochstraBe2
CH-3653 Oberhofen/Thunersee
 - 2) ファイルと管理
Mr.Roger Edme
6 Chemin de bellrvue
CH-1180 Rolle
Swizerland
 - 3) FIS マスターズ競技小委員会委員長
Dr.Harald HERBERT
Bachinggasse 6a
A-6370 Kizbühel
 - 4) 国内スキー連盟マスターズ委員長



MA 59) 表彰式:

- 規則 MA27)も参照
- 授与式はお祝いに相応しいやり方、3段式表彰台、賞品授与、サウンドシステム、スピーカー、観客のアクセス、音楽を使用して行うこと。
- 1日限りの競技の場合は、競技終了後、近くのレストランの中または外で直ちに行うように計画準備すること。2日間のイベントの場合は、初日の夕食前に（だいたい 18 事頃）カクテルレセプションを行い、地元の名士を呼び、スピーチとその日の授与式も行うよう推奨される。2日目はどちらか言うと短めの授与式を競技終了後直ちに、フィニッシュエリアで行い、競技者の迅速な出発を容易にする事。
- 規則として、各クラスの上位3選手は賞品が賞え、(大きな競技会では可能なら上位5選手)賞品は競技組織者が用意する。その日の最高タイムの選手とカテゴリの優勝者も称えること。

MA 60) 社交的プログラム:

- 規則 MA 27)も参照
- どんなマスターズレースにおいても、違う国からの選手仲間と交わって社交できる機会はとて重要なものとする。従って、下記のことが求められる:
- 1-2日間の競技の場合—規則 MA59)参照
- 数日間に及ぶ競技会の場合は2回以上の社交的集まりの機会を設ける事—ウエルカムカクテルパーティー、競技会閉会パーティーを含む。

MA 61) スポンサー

スポンサーの契約や協賛は組織委員会の自由に任されている。

D) 世界マスターズ

MA 71) オフィシャルタイトル:

英語: FIS World Criterium MASTERS Alpine Skiing

ドイツ語 : FIS weltkriterium MASTERS Ski Alpin

フランス語: FIS Criterium Mondial MASTERS Ski Alpin

イタリア語: FIS Criterium Mondiale MASTERS Sci Alpino

全ての印刷物、リザルト、レースプログラム、メダルなどにはオフィシャルタイトルの全文を使用する事。

MA 72) 例年イベント:

世界大会は毎年開催され、理想的には3月末、5-6日間にわたって、スーパー-G、ジャイアントスラローム、そしてスラロームの3種目で開催される。

それに加えて、FIS マスターズカップに有効なジャイアントスラロームも行われる。



MA 73) 参加者数の限度:

- a) 開催者に対して:
- 競技者の数は、組織の器量によって 400—500 選手に制限される。例外はマスターズ小委員会の承認を得る事。
 - もしも競技者が 400 名以下の場合は、開催する国がその差を埋めても良い。
 - 参加者が大きくなりすぎると予想される場合は、小委員会委員長と連絡をとり、大きな国に参加者数を制限してもらえようにする。
 - 開催者が参加者の人数を管理しやすいように、マスターズ小委員会は各国の参加者数を制限する権利を持つ。
- b) チームに対して:
- FIS マスターズポイントを持つ競技者のみ参加が認められる。しかし、下記を例外とする。
 - 各国は参加マスターズポイント所持者数に最高で 20%、ポイントの無い選手(例：40選手プラス8)をチームに加えることができる。
 - エントリーするポイントを持つ選手が 10 選手以下の国は、10 選手の定数をポイント無い選手で埋めても良い。

MA 74) エントリーの締め切りと費用の支払い

- a) エントリーの締め切り:
- 世界大会のエントリーの締め切りは最初の競技の 10 日前までとする。国内マスターズ委員長は競技の 1 ヶ月前におおよその参加者人数を連絡することが求められている。
- b) 費用の支払い:
- エントリー費は到着次第、競技番号とリフトパスと引き換えに、個別に支払う。
規則 52) b) 参照。
開催者は選手から最初の競技の前に、エントリーした全ての競技のエントリー費を徴収する権利が与えられている。エントリーフォームにはスタート予定の正確な競技種目を明記する事が義務付けられている！
 - 規則 MA 52) a) のチームキャプテンの任務として、DNS(スタートしなかった)数を減らすように努力する事。

MA 75) メダル:

開催者は各クラス上位 3 選手に金、銀、銅のメダルを用意する義務がある。メダルは世界大会に相応しい、価値ある見たく目で最低直径 75mm である事。

表面には公式の競技名、リゾートの名前、年、種目名、ランキングが分かるように明記されている事。裏面にはリゾートやスポンサーの表示があってもかまわない(ただし、目立ちすぎない事)。メダルの模型は実物を注文する前に、小委員会委員長の許可を得る事。

授与式は世界大会に相応しく、祭典らしく行うよう計画する事。



MA 76) パーティー:

社交的なハイライトとして、優雅なディナーパーティー（できればスポンサー付き）を競技会の最後の方に計画する事。しかし、出発日には行わないこと。授与式と続けて行う場合は、移動にお金がかからないようにすること。

MA 77) 「オリジナルの」ピブシステム:

世界大会の選手規模を考えると、毎日新しいピブを用意するよりも、同一ピブで1週間使用するのが望ましい。(選手の見分けがつくようにする。できれば選手にお土産として持って帰れるように)

1つのピブする事によって、ピブを配ったり回収したりする仕事の時間や順番待ちが短縮できる。しかし、下記の手順をきちんと踏まえた場合にのみ、この方法が上手く行く。

- a) スタートリスト:
出発順に選手をリストする以外に、隣の欄にも実際に選手が身に着けているピブの番号を明記する事。
- b) 旗門係員が正確に旗門を不通過する選手を見極める為には、旗門係員は旗門を通過不通過に関係なく、スタートした順から選手一人一人を確認し、マークする事。
もしも、通過する選手のピブが本来のスタート順通り出ない場合は、必要な時に正しい確認が出来ない場合がある。その場合は近くの旗門係員と“声を掛け合って”通過する選手のピブ番号を再確認すること。
- c) 同じ番号のピブが使われることを避ける為、全体で1セットのピブのみ使用する事。
最悪の場合でも、明確に色とカテゴリ B/C と A を分け2セット以上は使ってはいけない。
- d) ピブ(1から約 500)の配布準備は、(生年月日を元に)年配から若い順に番号があがるようにし、女子が最初で次が男子とし、カテゴリ C,B,A の順で用意する。これによって、年齢のグループが見分けやすくなり、選手を見た時にだいたいのスタート順が分かるようになる。

E) 「FIS マスターズカップ最終戦」-具体的な規定

MA 81) 総合マスターズカップ:

毎年、クラスごとのFIS ワールドカップに準じた、マスターズカップ総合優勝者を決める。全てのFIS マスターズカップ競技(だいたい1競技年度に18-25競技行われ、そのうちの4競技は北米で行われる)における上位15選手がFMCポイントを取得し、その年の間に加算していく。

MA 82) ポイント計算:

優勝者は一番ポイントを高く集めた選手とし、種目は関係なくそのシーズンの7つの最高ランキングを計算されたもの。最終選考に残る為には、最低5競技に出て獲得したポイントが必要。

ランキング別ポイント数:

1位=25、2位=20、3位=15、4位=12、5位=11 など 15位=1



MA 83) 同点決勝のルール:

1 位、2 位、3 位が同着の場合、下記の方法を持って、同着を解消する。

- a) 最後の競技、ベスト7のレースポイントの合計値が少ない人が優勝者である。
- b) 8つ、9つ目がベスト7の結果と同じ順位の場合は、一番レースポイントが低いものを考慮するものとする。
例:
ある選手は6回1位になり、3回2位になった。同着解消の為に
 - 6つの1位を考慮に入れ、そのポイントが合計される。
(他の2位、3位がレースポイントを下げようような場合であっても関係ない)
 - 結果に考慮すべき7つ目の判断するには、3つの2位の競技の中でレースポイントが一番低いものを考慮する。
- c) もし、2名以上の選手がちがう順位数で(5, 6, 7競技もありうる)、同じポイント合計数だった場合、同じ規則(レースポイントの合計が一番低い)が当てはまる。

MA 84) 組織の任務:

FIS マスターズカップの最終戦は競技年度の最後に毎年行われるものである。

開催者は下記の任務が満たされるよう求められている。

2-3のマスターズカップレース(スラローム、ジャイアントスラローム、可能ならスーパーGも)を開催し、最終日を土曜にする事。(閉会式も同日)

MA 85) Completing Overall Classification:

開催者は前回のマスターズカップレースまでの全競技のポイントが含まれ、クラス別に集計されたものを受け取る。もし、ポイント計算を熟知した責任者が立会いできない場合、開催者が最後の競技と閉会式の間に、クラス分けを完了させる責任がある。

電子ソフトウェアが供給される。

表彰式を行うためにも、完成したリザルトリストは印刷されている事。

MA 86) 賞品:

FIS マスターズ小委員会は各クラスの総合上位3選手に対して、見た目に価値あるトロフィーを用意する事。さらに、FIS がふさわしい表彰状を供給し、開催者が賞状に選手の名前、国籍、ランキングを明記する事。(全ての総合クラス別ランクの選手に用意できない場合は、表彰式の為に最低でも各クラス上位5選手の分は準備し、残りの分は郵送しても良い)

MA 87) 表彰式 -閉会パーティー:

華やかな閉会式パーティー(もし、スポンサーが見つからない場合は選手に参加費を貰っても良い)は土曜の夜に計画され、その年の閉会式に相応しい華やかなものにする事。

まず始めに、その日の競技の表彰式を行い、その後に総合トロフィーの授与を行うこと。

これらは小委員会委員長によって授与され、国内のマスターズ委員会と組織委員会の委員長がアシストする事。